

# 足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会

## 第1回鳥類部会

◎足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第1回鳥類部会が平成19年5月17日に福井厚生年金会館にて開催されました。

### 足羽川ダム工事事務所長挨拶



足羽川ダム工事事務所 岩崎福久所長からの挨拶

### 委員紹介



足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 鳥類部会は、鳥類を担当分野とされる4人の委員で構成されています。

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 鳥類部会 委員名簿

氏 名		現 職 等
松村 俊之	まつむら としゆき	福井県自然保護課 主任
久保上 宗次郎	くぼがみ そうじろう	猛禽類研究家
林 武雄	はやし たけお	日本鳥類保護連盟 専門委員
上木 泰男	うえき やすお	日本鳥類保護連盟 専門委員

## 第1回鳥類部会での審議骨子

足羽川ダム建設事業環境影響評価技術検討委員会 第1回鳥類部会では、次のような議事が審議されました。

### I. 部会長の選出

鳥類部会委員の互選により、林武雄委員を部会長に選出しました。



林武雄部会長による挨拶

### II. 鳥類について

事務局より、以下の事項が報告されました。

- ・ 既往調査の手法
- ・ 既往調査の時期
- ・ 既往調査の位置
- ・ 鳥類の確認種
- ・ 鳥類の重要な種及び注目すべき生息地の抽出結果

## 第1回鳥類部会での審議骨子

事務局からの報告に対する委員からの意見及び事務局回答は以下のとおりです。

(1/2)

日時	平成19年5月17日(木) 14:00~16:00	
場所	福井厚生年金会館	
項目	委員からの意見	事務局回答
鳥類の確認種	<p>確認種リスト(I-8~11)のうち、以下にあげる種類は調査地域では稀な種である。詳細なデータが記録されているかどうかを調べておく必要がある。 オオミズナギドリ・ウミウ・マガン・コハクチョウ・クロハゲワシ・ハイロチュウヒ・ウズラ、コジュケイ・タマシギ・カワセミ・ヤイロチョウ・イワヒバリ・キマユムシクイ・オオジュリン・ニュウナイスズメ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ コジュケイは以前若狭等へ20羽ほどを放鳥したことがあるが山間部では少ない。</li> <li>・ キマユムシクイは識別が難しい種であり写真撮影等同定の根拠はあるか</li> <li>・ ウズラは、飼育されていたものが各地で野生化していることから、野生種か飼育されたものが野生化したものか区別できているか</li> <li>・ クロハゲワシは、以前、能登と若狭で記録されたことがある。これらの記録と同じ年に確認されたかどうかをチェックしておいてほしい。</li> </ul> <p>なお、これらの種は稀な種であり、重要な種とする必要はない。このような一過性の記録はどこで調査を行っても確認されるものである。</p>	<p>各種の確認状況について、可能な限り詳細なデータ・写真記録の抽出を行った。</p>
生態系上位性 (陸域)	<p>より大きな地図(1/2.5万レベル)に示された詳細なデータを見せてほしい。</p> <p>また、内部構造の解析のためのバックデータを見せてほしい。つがい毎にいくつ巣があるか、年度別にどのような繁殖状況だったのか、等の繁殖状況に関する詳細なデータを整理してほしい。</p> <p>クマタカ以外の猛禽類(ハチクマ・ツミ・ハイタカ・ノスリ・サシバ・オオタカ)の確認状況について、繁殖状況等の詳細なデータを見せてほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ クマタカ各つがいについて、内部構造の解析に用いたデータを1/25,000程度の縮尺で図面を作成した。</li> <li>・ クマタカ各つがいの繁殖状況を整理した資料を作成した。</li> <li>・ クマタカ以外の猛禽類についても、確認位置、繁殖関連行動の確認位置等を示し、生息・繁殖状況を整理した資料を作成した。</li> </ul>
	<p>調査地点が調査範囲の外側にも存在し、かなり広範囲に調査をしている(II-16ページ)。一方、調査地域は改変区域から3kmとのことであるが、ダム堤体付近ではやや狭いと思う。</p> <p>ダム堤体付近の調査地域は、地形等をふまえ、もう少し広くした方が良いと思う。</p>	<p>調査地点が調査範囲の外側にも存在するのは、過去のダム予定地が現在と異なっていたためである。</p> <p>調査範囲は、地形等を考慮し、今後、再検討する。</p>

## 第1回鳥類部会での審議骨子

(2/2)

日時	平成 19 年 5 月 17 日 (木) 14:00~16:00	
場所	福井厚生年金会館	
項目	委員からの意見	事務局回答
生態系上位性 (河川域)	近年、カワウのコロニーが、ダム周辺等、福井県内の山間部で確認されている。このようなカワウ本来の生息域でない上流域では、ヤマセミの主要な餌となるイワナやヤマメといった溪流性の魚類を捕食している。このため、カワウは、ヤマセミの生息状況を考えるうえでも重要となることから、ヤマセミ調査時には、カワウの生息状況を記録すること。	今後はヤマセミ調査時に確認されたカワウについて、確認位置、個体数、行動等を記録する。
その他	調査成果の検討を行うために、バックデータを見せてほしい。	・クマタカ各つがいについて、内部構造の解析に用いたデータを 1/25,000 程度の縮尺で図面を作成した。
	ダム堤体付近に分布するクマタカつがいについては、巣から事業区域までの距離や巣から事業区域までの見通しの有無など、事業との関係についても整理すること。	・今後、影響予測を行う中で、クマタカ各つがいの内部構造、営巣環境、狩場環境と事業との関係を整理していく。